

## 自動車安全性能等試験について

### 1. 対象車種について

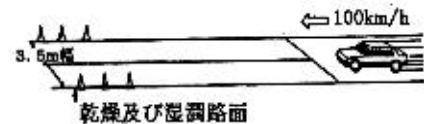
対象となる車種の選定は、次の原則に沿っています。直近6ヶ月の販売実績が上位の車種から選定します。但し最近モデルチェンジしたものについては前のモデルの販売実績等も考慮しています。早期にモデルチェンジが行われる予定の車種は選定しません。1メーカーあたり6車種を上限としています。これまで実施した車種は除きます。自動車製作者等からの申し出による車種も予定しています。

### 2. 比較試験項目について

比較試験は、高速ブレーキ試験、フルラップ前面衝突試験、オフセット前面衝突試験、側面衝突試験を予定しています。試験は自動車事故対策センターが担当します。

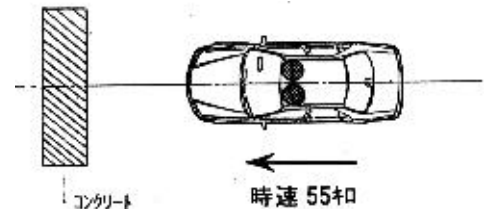
#### (1) 高速ブレーキ試験

自動車を乾燥路面及び湿潤路面において時速100kmから急ブレーキをかける試験。



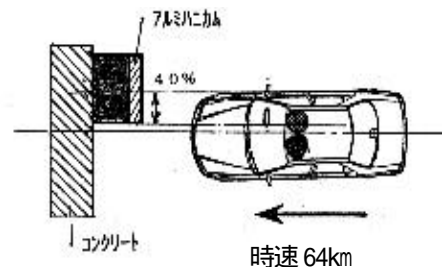
#### (2) フルラップ前面衝突試験

運転者席及び助手席にダミーを搭載した自動車を時速55kmでバリア前面に垂直に正面衝突させる試験。ダミーに与える衝撃が大きいため、その衝撃を緩和するためにシートベルト、エアバッグ等の乗員拘束装置及び車体の衝撃吸収性能の評価に適しています。



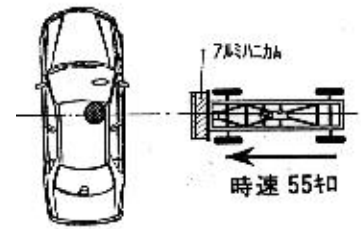
#### (3) オフセット前面衝突試験

運転者席及び助手席にダミーを搭載した自動車の運転席側一部(車幅40%)を時速64kmでアルミハニカムに垂直に前面衝突させる試験。車両の一部で衝撃を受けるため、車体変形が大きく、乗員の生存空間等の評価に適しています。



( 4 ) 側面衝突試験

運転者席にダミーを搭載した自動車の運転者席側の側面に時速 55 km で台車を衝突させる試験。



3 . 評価方法について

評価方法は下記のとおりです。

( 1 ) 高速ブレーキ試験

乾燥路面( 路面温度条件  $35.0 \pm 10.0$  )、湿潤路面( 路面温度条件  $27.0 \pm 5.0$  ) における停止距離を測定します。幅 3.5 m の車線からはみ出したかどうかも確認します。

( 2 ) フルラップ前面衝突試験及びオフセット前面衝突試験

ダミー各部位の傷害値と、車体の変形量を計測して評価します。

( ダミーの傷害値 )

頭 部：頭部傷害値 ( H I C )

頸 部：引張荷重、剪断荷重、伸張モーメント

胸 部：胸部傷害値、胸部変位

下肢部：大腿部荷重、脛骨指数

( 車体変形量 )

ステアリング上方・後方変位量 / ブレーキペダル上方・後方変位量

計測結果は、運転者席及び助手席毎に、ダミー傷害値及び車体変形量の計測値に基づき各部位について 4 点満点で点数化し ( 別紙 3 参照 )、それを合計して総合点数を算出のうえ、5 段階評価指標で公表します。さらに、ドアの開扉性、乗員の救出性並びに衝突後の燃料漏れの有無について評価し公表します。

( 3 ) 側面衝突試験

ダミー各部位の傷害値を計測して評価します。

( ダミーの傷害値 )

頭部：頭部傷害値 ( H P C )

胸部：胸部変位

腹部：腹部荷重

腰部：恥骨荷重

計測結果は、運転者席のみ、ダミー傷害値の計測値に基づき各部位について 4 点満点で点数化し ( 別紙 4 参照 )、それを合計して総合点数を算出のうえ、5 段階評価指標で公表します。さらに、ドアの開扉性、乗員の救出性並びに衝突後の

燃料漏れの有無について評価し公表します。

( 4 ) 総合評価

運転者席に関しては、フルラップ前面衝突試験、オフセット前面衝突試験、側面衝突試験の3種類の衝突試験の各々の点数を合計したうえ、6段階評価指標( ~ )で公表します。また、助手席に関しては、フルラップ前面衝突試験、側面衝突試験(運転者席の点数を流用)の点数を合計し、運転者席と同様の方法で公表します。(別紙5参照)